

スズキ、2016年3月期決算を発表

－ 当期は増収増益、次期は為替円高もあり減収減益見込み －

1. 2016年3月期決算の業績概況

当期の連結売上高は3兆1,807億円と前期に比べ1,652億円(5.5%)増加しました。国内売上高は軽自動車税増税の影響やOEM売上の減少により1兆479億円と前期に比べ467億円(4.3%)減少しました。海外売上高はインドでの四輪車の売上増加等により2兆1,328億円と前期に比べ2,119億円(11.0%)増加しました。

連結利益の面では、営業利益はインドでの増益等により1,953億円と前期に比べ159億円(8.9%)の増加、経常利益は2,091億円と前期に比べ148億円(7.6%)の増加、親会社株主に帰属する当期純利益は1,167億円と前期に比べ198億円(20.4%)の増加となりました。

新中期経営計画「SUZUKI NEXT 100」では、2019年度の株主還元目標として連結配当性向15%以上を掲げました。当期につきましては、自己株式取得及び自己株式消却を実施したことを勘案し、フォルクスワーゲンAG普通株式の売却益を除く親会社株主に帰属する当期純利益を基礎として、期末配当金は1株につき前期と同額の17円とさせていただく予定です。なお、中間配当金を含めました年間配当金は32円となり、前期より1株につき5円増配となります。

2. 各セグメントの状況

四輪車事業につきましては、国内売上高は軽乗用車「アルト」、「アルト ラパン」が、前年の「ハスラー」に続き2年連続でRJCカーオブザイヤーを受賞するなど高い評価を頂き、小型車では「ソリオ」、「エスクード」、「イグニス」、「バレーノ」の発売など商品力を強化し拡販に努めてまいりましたが、軽自動車税増税の影響やOEM売上の減少により、前期を下回りました。海外売上高は欧州での「ビターラ」の販売貢献やインド、パキスタンでの増加等により前期を上回りました。この結果、四輪車事業の売上高は2兆8,785億円と前期に比べ1,765億円(6.5%)増加しました。営業利益はインドでの増益等により1,926億円と前期に比べ208億円(12.1%)増加しました。

二輪車事業につきましては、売上高は新型ロードスポーツバイク「GSX-S1000」やインドでの「ジクサー」の販売貢献があったものの、インドネシアでの減少等により2,339億円と前期に比べ166億円(6.6%)減少しました。営業利益は品質関連費用もあり前期の営業損失7億円から営業損失102億円となりました。

特機等事業の売上高は米国での船外機の売上増加等により683億円と前期に比べ53億円(8.3%)増加しました。営業利益は129億円と前期に比べ46億円(55.8%)増加しました。

所在地別の営業利益につきましては、日本が研究開発費、減価償却費の増加等により848億円と前期に比べ59億円(6.5%)減少しましたが、アジアがインド、パキスタンでの増益等により1,038億円と前期に比べ222億円(27.2%)増加しました。

3. 次期の連結業績予想

次期は欧州、インドなどで四輪車の販売増加を見込みますが、為替円高もあり減収減益を見込みます。当社グループは一丸となってあらゆる分野での改革に取り組み、以下の連結業績予想以上を達成すべく事業活動を展開してまいります。

(連結業績予想…通期)

売上高	3兆1,000億円	(前期比 2.5%減)
営業利益	1,800億円	(前期比 7.8%減)
経常利益	1,850億円	(前期比 11.5%減)
親会社株主に帰属する当期純利益	930億円	(前期比 20.3%減)
(為替レート) 1米ドル=105円、1ユーロ=120円、1インドルピー=1.60円、 100インドネシアルピア=0.80円、1タイバーツ=3.00円		

以上